

# くるみの接木試験

町田博・矢島西司・倉島留次郎

くるみの接木は他の果樹に比較して著しく困難であって、以前高馬氏が提唱した温床接木法を実施している業者もそれほど好成績をみていないようである。

われわれはさきに選抜された優良品種系統の繁殖のため、数年前から梨の接木法に準じて普通の切接、袋接で接木し、それを温床に伏込み培養するくるみの接木を行ってきたが、思わしい成績を得られなかった。

本年はその穂木に種々な薬剤処理を行ってこの効果をみる試験を行った。

## 試験方法

用いた薬剤とその用い方についてはそれぞれの項で求ることとし、各試験の共通事項について述べると、

台木……主として実生の2年生共台を用い、一部の試験には2～3年生のオニクルミ台を用いた。

穂木……当農場所所有母樹「信鈴」「美鈴」のほか、主産地生産者所有母樹「錦秋」、K-15、K-28、N-11、N-36、T-34等のものが用いられた。

接木方法……それぞれの試験実施当日に、約1ヶ月前から温床に仮植しておいた台木を青頸で切断して接着面を作り、切接あるいは袋接して、主として紙テープ、一部ブラックテープで巻縛し、電熱温床(地中10cmで平均21°C前後)に伏込み培養した。

活着検定……6月30日一斉に行った。

## 試験結果

### 1. フレッシュロール塗布試験

フレッシュロールは長野県上高井郡小布施町米沢苗圃発売のワセリン様の接木活着剤で、同苗圃から寄贈されたものを用いた。

試験施行日は5月7日。台木は共台。

塗布はフレッシュロールをガーゼに充分しませて接穂の所定部位に塗った。

### 結果

処 理 別	接 木 数	活 着 数	活 着 率
接穂全面塗布	33	12	36.4%
接穂接着面のみ塗布	33	4	12.1
接穂の頂部切口と芽のみ塗布	15	1	6.7

2. ジベラ, N A A 処理試験

接木施行日は4月28~29日, 台木は共台とオニ台木の両方を用いた。

穂木は所定の薬液に24時間浸漬した。

処理区

A.....無処理

B.....対照のため水に24時間浸漬

C.....ジベラ50 P.P.M 溶液に同上時間浸漬

D..... $\alpha$ -ナフタレン 醋酸5,000倍液に同上時間浸漬

E.....同上 50,000倍液に同上時間浸漬

結 果

処 理 別	共 台			オニ台			計		
	接木数	活着数	%	接木数	活着数	%	接木数	活着数	%
A	14	3	21.4	14	4	28.6	28	7	25.0
B	14	5	35.7	14	1	7.1	28	6	21.4
C	14	0	0	14	0	0	28	0	0
D	14	3	21.4	14	3	21.4	28	6	21.4
E	14	2	14.3	14	2	14.3	28	4	14.3

3.  $\beta$ -インドール醋酸処理試験

接木施行日は5月8日, 台木は共台。

$\beta$ -インドール醋酸の5%アルコール500 P.P.M 溶液に対し, A処理は接穂の接着面のみを1秒間, B処理は接穂全体を10秒間浸漬して直ちに接いだ。対照は5%アルコールに1秒間浸漬である。

結 果

処 理 別	接木数	活着数	%
標 準 (無処理)	35	3	8.6
対 照 (5%アルコール1秒)	35	8	22.9
A (インドール醋酸1秒処理)	35	5	14.4
B (全上 10 ")	35	0	0

#### 4. $\beta$ -ナフトキシ醋酸処理試験

この試験では $\beta$ -ナフトキシ醋酸の10 P.P.M水溶液に接穂を24時間浸漬処理して用いた。第1次は5月18日施行、穂木は3系統、台木は共台であり、第2次は全20日施行、穂木は4系統、台木は共台である。

#### 結 果

処 理 別	第 1 次			第 2 次		
	接木数	活着数	%	接木数	活着数	%
処 理	60	0	0	52	3	8.8
無 処 理	60	0	0	52	0	0

#### 総 括 摘 要

1. 穂木の貯蔵中恒温槽の不備で14〜5℃の変温で凍害を受けたかと思われる芽の枯死したものがあつたためか、全般的に活着はよくなかつた。
2. 接ぎ方は切接と袋接を行つたが、活着したものには袋接のものが多かつた。
3. 用いた接穂の髓の小さなものに活着したものが多かつた。
4. 施行日の早い方が活着がよかつた。
5. フレッシュロール使用試験では所定使用法の接穂全面塗布が矢張り良い成績を示した。
6. 植物ホルモン剤使用試験では $\beta$ -インドール醋酸処理の成績がよかつた。